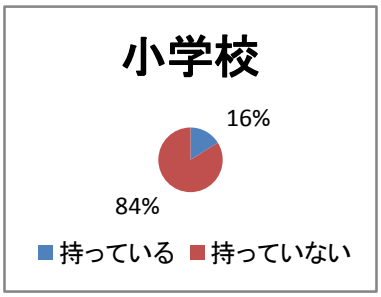
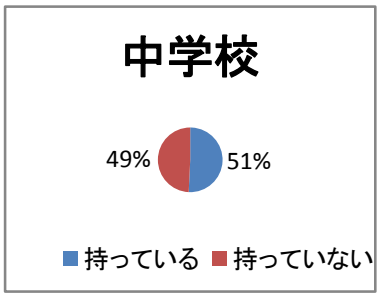
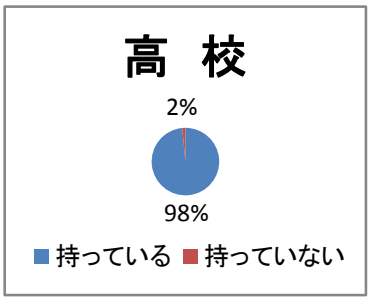
【設問1】あなたは自分専用の携帯電話を持っていますか？





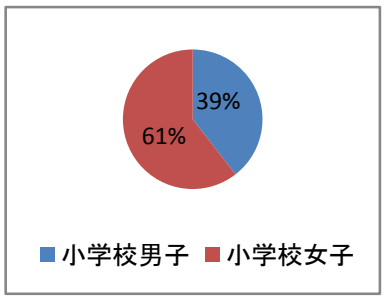


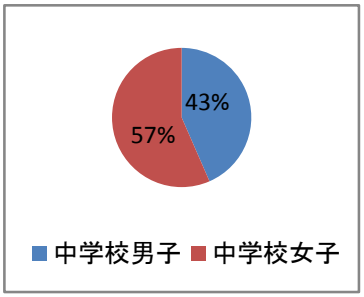
＜分析および考察＞

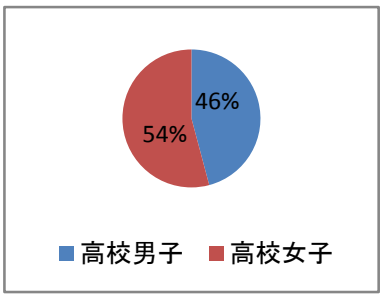
・県教委の過去の調査（2002年実施）によると、所持率は小学5年生で7.1％（5、6年生全体では8.2％）、中学2年生で29.8％（全体では29.8％）、高校2年生で92.9％（全体では92.7％）であった。今回の調査結果では、所持率は小学5年生で16.1％、中学2年生で50.7％、高校2年生で98.5％であった。子どもたちの生活の中での携帯電話の普及が進んでいると考えられる。また、内閣府がまとめた平成19年2月の「低年齢少年の生活と意識に関する調査報告書」では、小学生の所持率が14.8％、中学生では51.7％となっており、似た結果を示した。高校生での伸び率は緩やかであるが、小・中学生での伸び率は1、7～2倍程度である。比較的早い時期から携帯を所有する傾向が進んでいると考えられる。こうした所持率の増加の背景には、インターネットや各種通信機器の発達によるコミュニケーションツールとして普及の広がりや、社会の不安定要因などへの対策として活用が広がったなどの理由があると考えられる。

今回の調査は、守山市および野洲市の小学校・中学校・高校を各1校ずつ抽出し、小学校においては5年生とその保護者、中学校においては2年生とその保護者、高校においては、2年生を対象に実施した。尚、回答率は小学校児童94.4％、保護者83.8％・中学校生徒93.7％、保護者86.7％・高校生徒88.7％（ただし、児童・生徒の回答率は在籍数に対しての割合である）

◇男女別所持割合







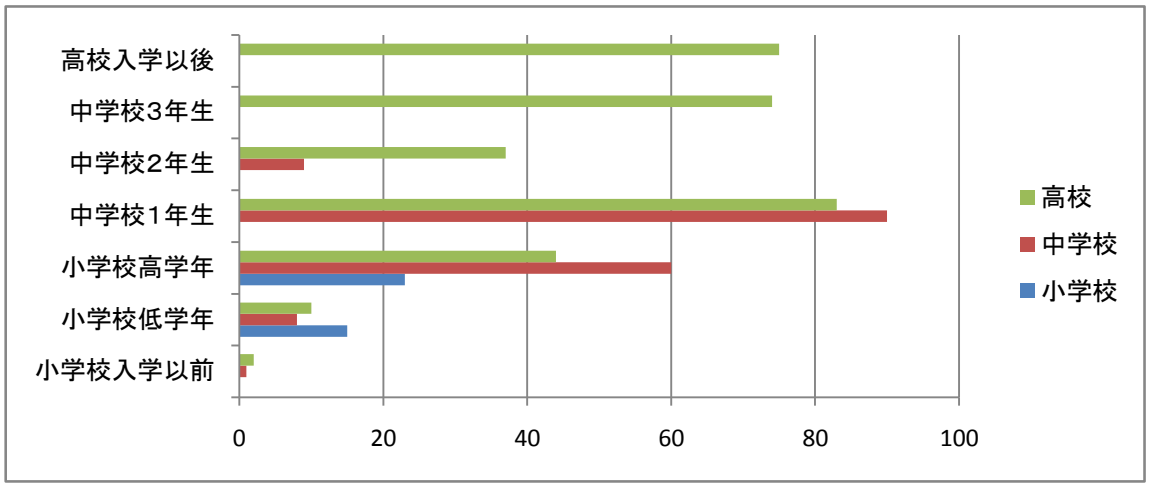
◇男女別所持率

	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子	高校男子	高校女子
持っている	15	23	73	95	149	176
持っていない	112	86	106	57	2	3
所持率	11.8%	21.1%	40.8%	62.5%	98.7%	98.3%

＜分析および考察＞

・男女別所持率は、小学5年生男子は11.8％、小学5年生女子は21.1％、中学2年生男子は40.8％、中学2年生女子は62.5％、高校2年生男子は98.7％、高校2年生女子は98.3％となっている。県教委の調査では、小学生男子（5、6年生）は5.8％、小学生女子は10.8％、中学生男子（全体）は23.0％、中学生女子は36.8％、高校生男子（全体）は89.2％、高校生女子は96.1％であった。特に小・中学生女子の所持率が高くなっているが、社会的弱者（女性や子どもなど）が被害者になるトラブルや事件の増加に伴い、防犯対策や居場所確認の連絡用としての利用が高まっていると考えられる。

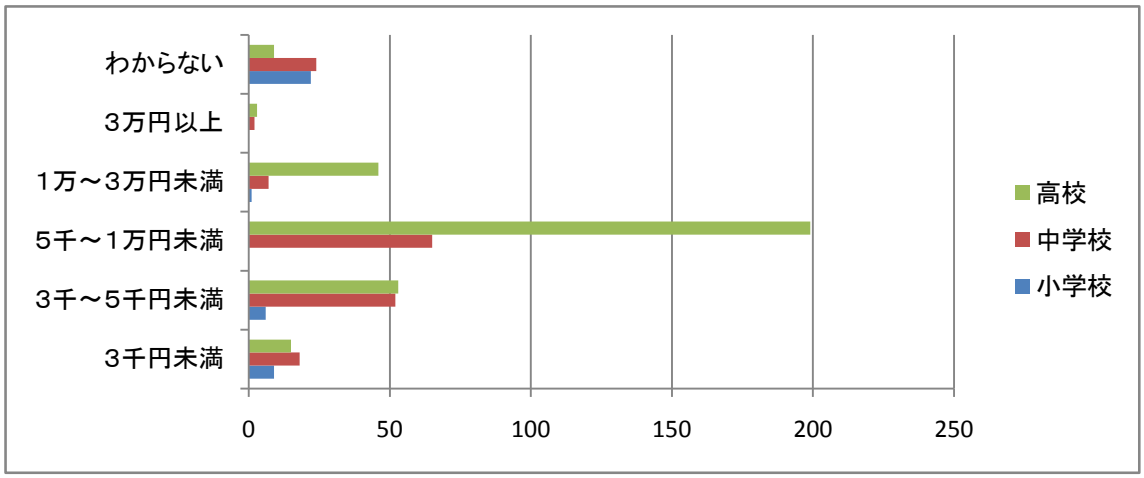
【設問2】携帯電話を持ったのはいつ頃ですか？



＜分析および考察＞

・小学5年生では、所有開始時期は高学年になってからが多い。中学2年生では、小学校卒業期から中学校入学期に所有するケースが多く、また、高校2年生でも、中学校の入学期や卒業期、高校への入学期に多く所有する傾向が見られる。中学生の保護者向けのアンケート結果からも、中学校入学を契機に中学校1年生時に携帯電話を持たせている割合が高い。最近の傾向としては、携帯電話所有（保護者が持たせている）の低年齢化が一層進んでいる。

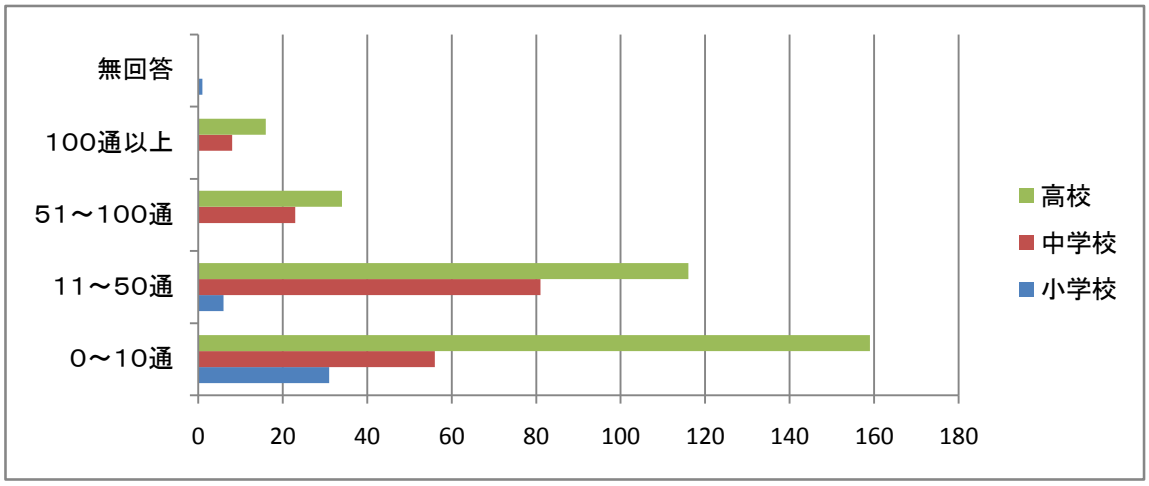
【設問3】1ヶ月の携帯電話使用料は平均いくらですか？



＜分析および考察＞

・全体的には、1万円未満での使用状況が多く、特に高校2年生では5千～1万円未満が61.2%と高くなっている。過去の県教委の調査では、1万円未満の使用状況は小学生で49.2%、中学生で74.3%、高校生で77.7%であった。今回の調査では、1万円未満の使用状況は小学5年生で39.5%（ほとんどが5千円未満）、中学2年生で80.3%、高校2年生で82.1%であった。全体的に1万円以上の使用状況は減少傾向にある。小学生では、「わからない」と答えた割合が57.9%あり、これは小学生では保護者が意図的に携帯電話を持たせている実態があり、使用料等については保護者が管理しているケースがほとんどであると考えられる。中学生や高校生で1万円以上の使用が減少傾向にあるのは、各販売業者間での利用者獲得をめざしたサービス向上や料金体系の変更等により安価で割安なシステムが普及した結果とみることもできる。ただ、中学生や高校生の中には、3万円以上の使用料を支払っているケースもみられた。使用料は減少しているが、機能の多様化もすすみ使用頻度は増加していると考えられる。

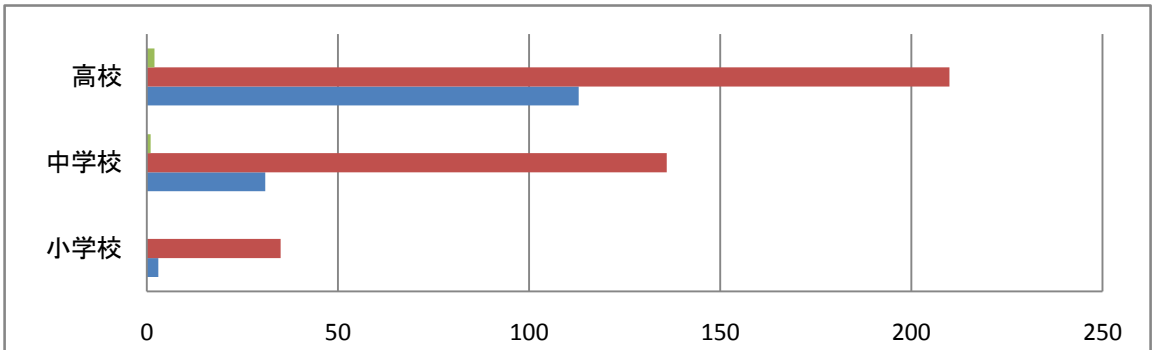
【設問4】1日平均何通くらいのメールの送受信をしますか？



＜分析および考察＞

小学5年生では1日平均送受信数は0～10通の割合が81.6%、中学2年生では11～50通の割合が48.2%、高校2年生では0～10通の割合が48.9%と一番高くなっている。中学生では50通までの合計割合が81.5%、高校生では84.6%となっている。また、1日平均100通以上のメールの送受信をするものが中学生で4.8%、高校生4.9%いる。高校生では、使用目的も多様化し、メール以外の使用もかなり多いと考えられる。1日の生活時間の中で携帯電話でのメールをはじめ、インターネットなどの使用などで多くの時間が費やされていると考えられる。

【設問5】出会ったことのない「メル友」はいますか？

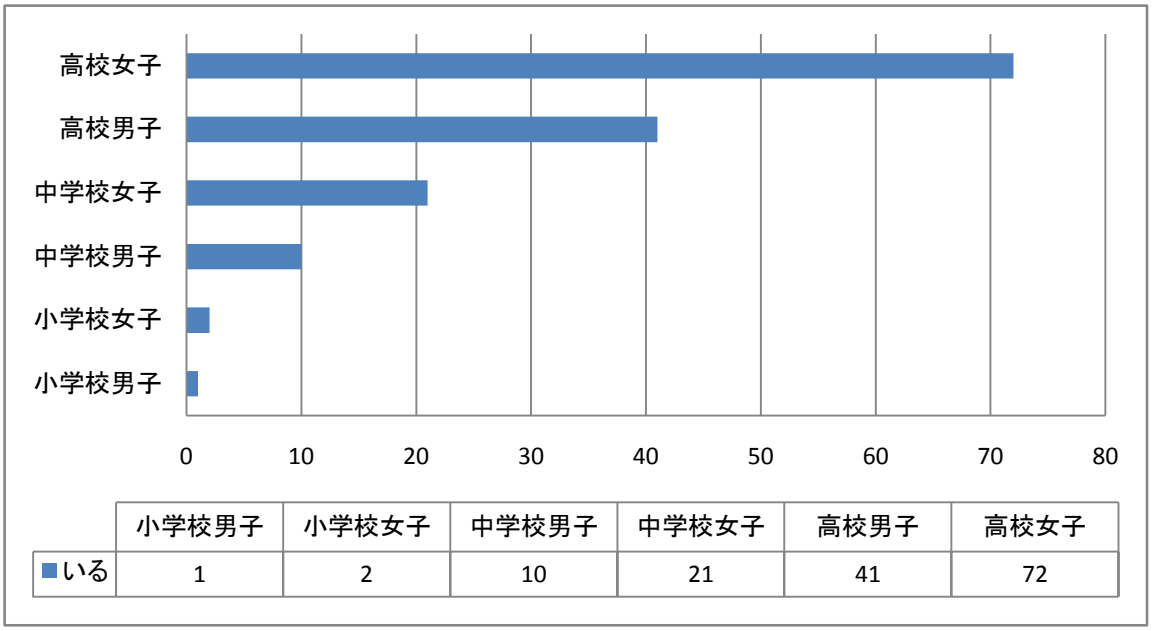


	小学校	中学校	高校
無回答	0	1	2
いない	35	136	210
いる	3	31	113

＜分析および考察＞

出会ったことのない「メル友」がいると答えた割合は、小学5年生では7.9%、中学2年生では18.5%、高校2年生では34.8%となっている。学年があがるにつれ、その率が上がる。メールをはじめ携帯電話の使用頻度とも相関関係があると考えられる。

◇男女別「メル友」存在状況

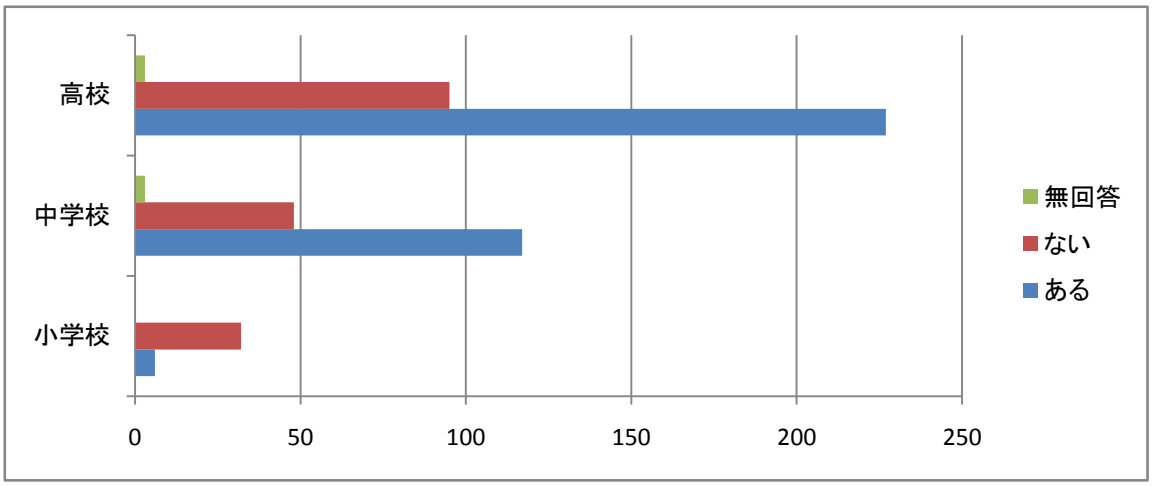


	小学校男子	小学校女子	中学校男子	中学校女子	高校男子	高校女子
いる	1	2	10	21	41	72

＜分析および考察＞

男女別に「メル友」の存在率を比較すると、中学2年生男子では13.7%、女子では22.1%、高校2年生男子では27.5%、女子では40.9%で女子の方が男子より「メル友」の存在はおおよそ1.5倍程度の比率で高くなっている。携帯電話の使用頻度等とも関係するが、特に高校生女子がトラブルや事件に巻き込まれるケースが多く発生していることとも関連づけられる。

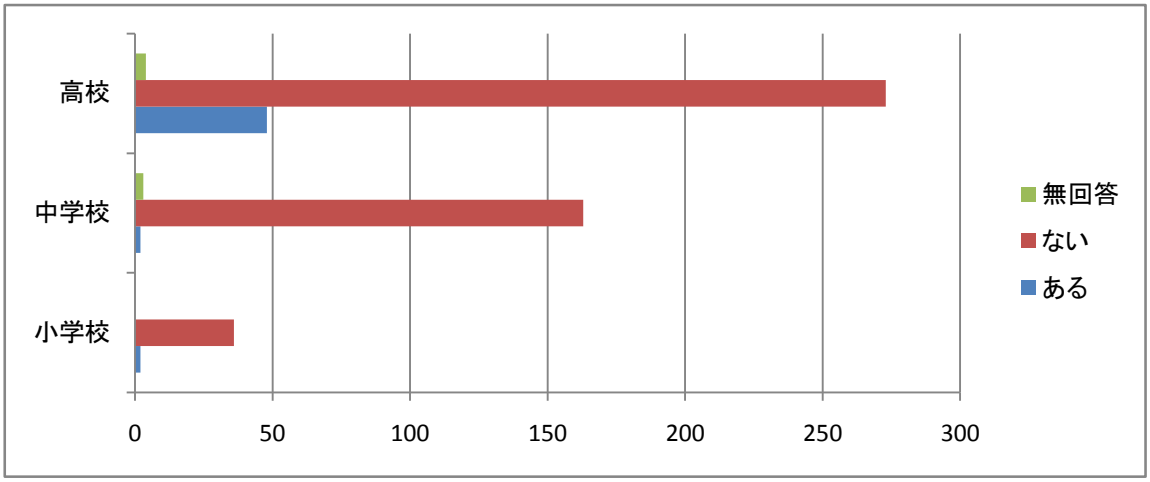
【設問6】迷惑メールを受信したことがありますか？



＜分析および考察＞

迷惑メールの受信経験がある割合は、小学5年生では15.8%、中学2年生では69.6%、高校2年生では69.8%である。小学生では比較的少ないが、中・高校生では約7割が迷惑メールの受信経験を持っている。今回の調査では、具体的な迷惑メールの内容については問わなかったが、出会い系サイト関連のメールやチェーンメール、中傷メール、各種広告メールなどいろんな形態の迷惑メールを受信している可能性が高いと考えられる。

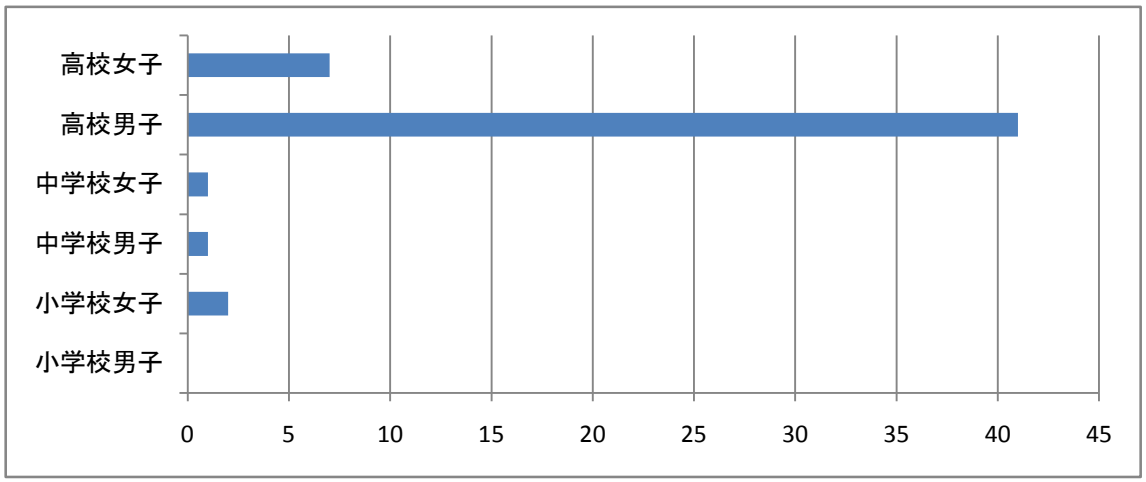
【設問7】「出会い系」サイトや「アダルト」サイトなどを見たことがありますか？



＜分析および考察＞

「出会い系」サイトや「アダルト」サイトの閲覧状況の割合は、小・中学生は比較的低いが高校2年生では14.8%である。高校生では、所持率が高いこともあり有害サイト等の閲覧経験が一気に増加するため、こうしたことがきっかけで、トラブルや犯罪に巻き込まれる危険性が高くなると考えられる。

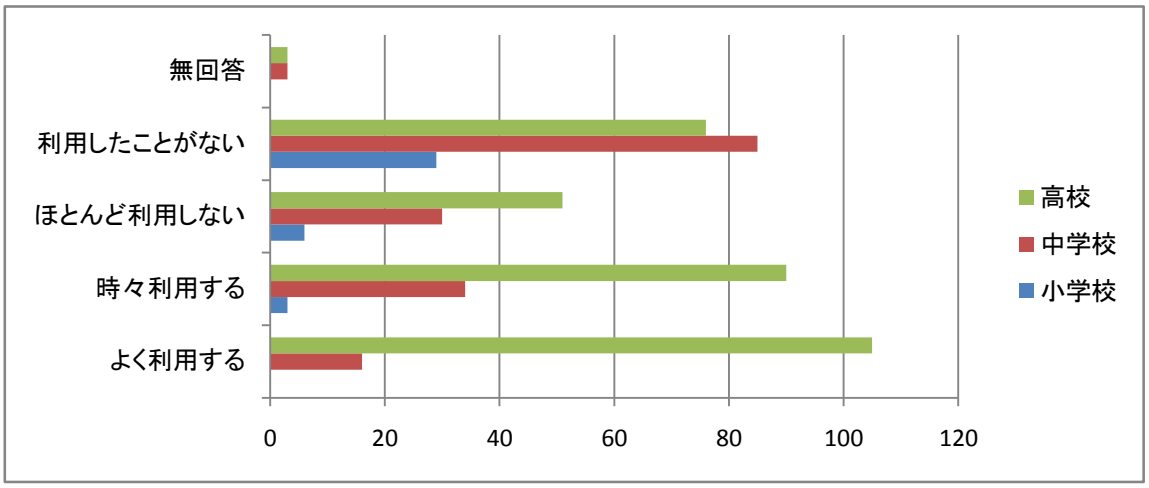
◇男女別閲覧状況



＜分析および考察＞

「出会い系」サイトや「アダルト」サイトの閲覧状況の割合を男女別に比較したときに、高校2年生男子では27.5%、女子では4.0%である。高校2年生男子での閲覧状況が圧倒的に高い割合を示している。「出会い系」サイトを介した犯罪で高校生女子が被害者になるケースが多く発生していることを考慮すると、高校生男子においては、どちらかと言えば「アダルト」サイトの閲覧状況の割合が多くを占めるのではないかと考えられ、そうしたサイトへの興味や関心の高さが伺われる。

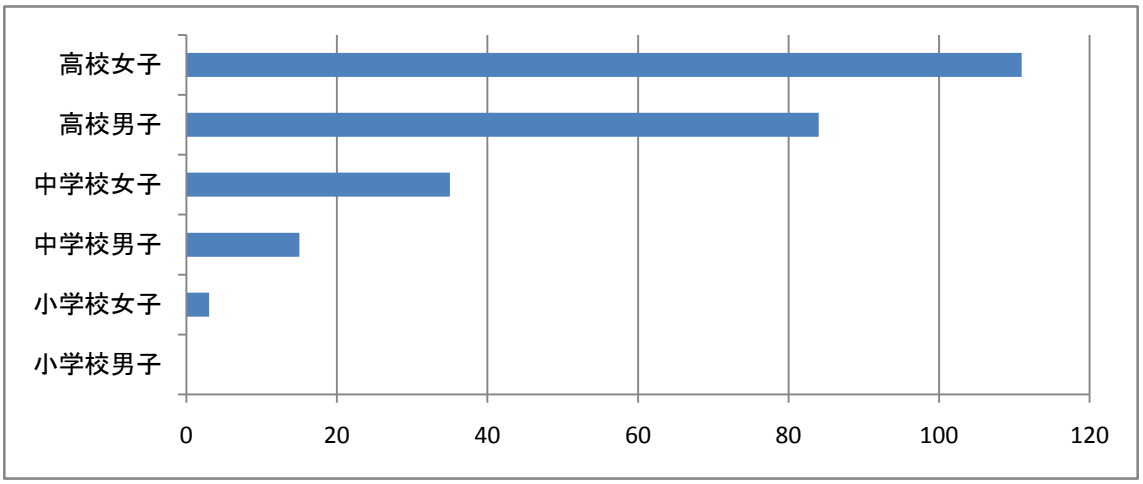
【設問8】掲示板・ブログ・チャットなどを利用することがありますか？



＜分析および考察＞

利用経験がある（「よく利用する」「時々利用する」を合計した数）は、小学5年生では7.9％、中学2年生では29.8％、高校2年生では60.0％である。中学生ではおおよそ3人に1人、高校生では3人のうち2人が掲示板やブログ、チャットの利用経験がある。高校生では、利用するものの中でも特に「よく利用する」ものの割合が高く、利用頻度が多いと考えられる。

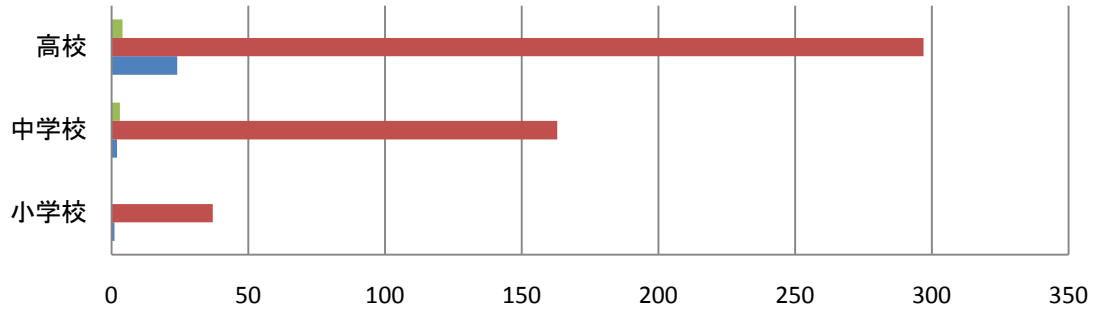
◇男女別利用状況



＜分析および考察＞

利用状況を男女別にみると、中学生2年男子では20.5％、女子では36.5％、高校2年男子では56.4％、女子では63.1％である。どの学年においても女子の利用状況が男子よりも高くなっている。

【設問9】携帯電話を悪用したトラブルや犯罪の被害にあったことがありますか？

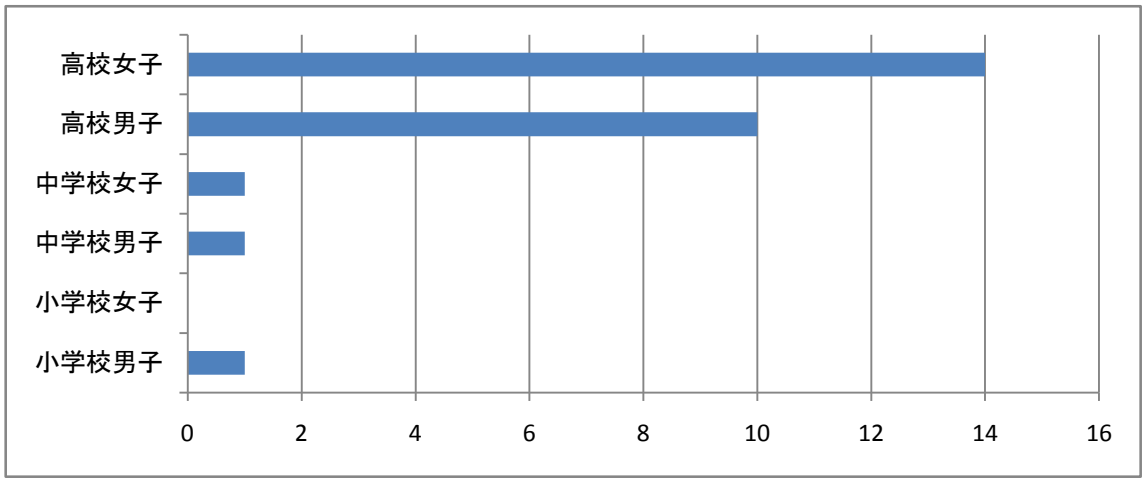


	小学校	中学校	高校
無回答	0	3	4
ない	37	163	297
ある	1	2	24

＜分析および考察＞

被害の発生状況は小学生で1人、中学生で2人、高校生で24人であった。小・中学生では被害の発生状況は低いが、高校生では全所持者の7.4%が被害経験がある。今回の調査では、具体的な被害内容については問わなかったが、所持率や使用頻度の高さとも関連し、高校生が被害に遭う危険性が高いと考えられる。

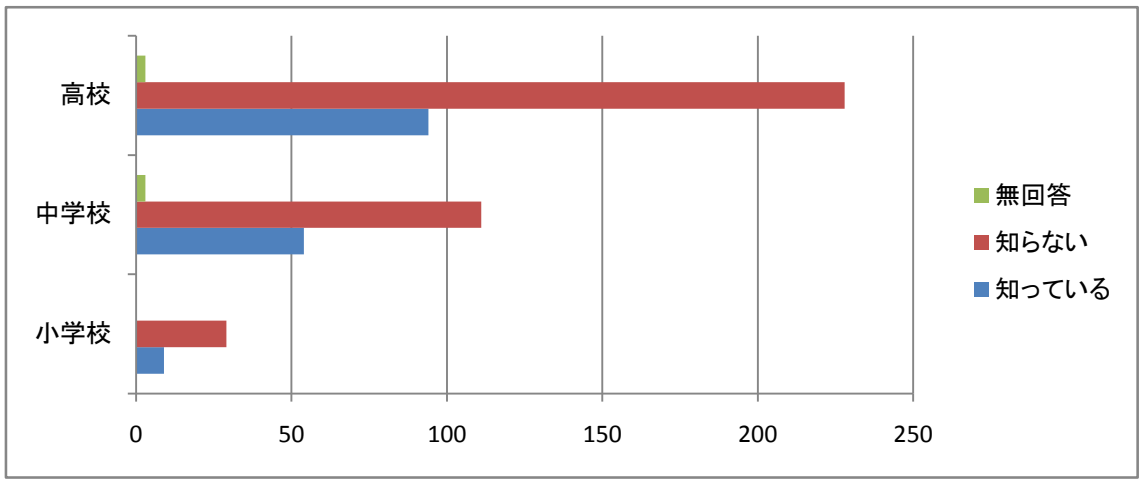
◇男女別被害状況



＜分析および考察＞

被害状況を男女別にみてみると、高校生での被害総数24人のうち、男子が10人、女子が14人である。架空請求詐欺被害や出会い系サイトによる援助交際、児童買春の被害なども携帯電話を介したトラブルや犯罪が多く発生している現状から、高校生（特に高校生女子）がそうした被害に遭う確率が高いと考えられる。

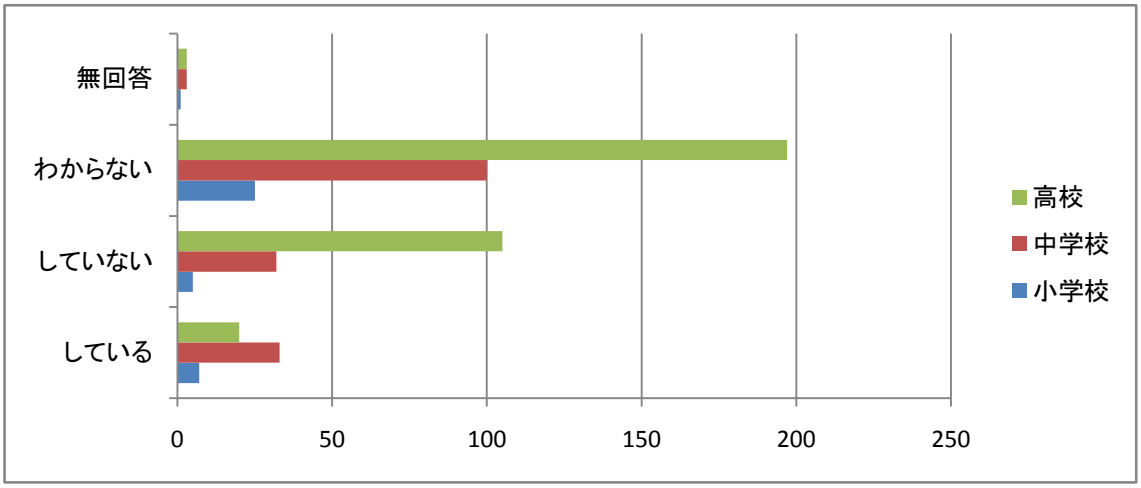
【設問10】フィルタリングを知っていますか？



＜分析および考察＞

フィルタリングの認知度の割合は、小学5年生では23.7%、中学2年生では32.1%、高校2年生では28.9%である。全体的に3割程度しかフィルタリングについて認知されていない実態がある。男女別にみると、小学5年生男子では26.7%、女子では21.7%、中学2年生男子では32.9%、女子では31.6%、高校2年生男子では29.5%、女子では28.4%である。いずれの学年においても携帯電話の所持者の中で、男子の方が認知度がやや高いが低水準である。携帯電話を悪用したトラブルや犯罪が増加する中で、各携帯電話販売業者においても独自のサービス等が提供されてはいるものの、青少年の認知度の結果からみると青少年への啓発等での課題があると考えられる。今後、認知度を7割程度まで高め、利用者にとって「フィルタリング」がさらに有効な手だてとなるよう課題解決に向けた具体的な取組が必要である。

【設問11】フィルタリング等のアクセス制限をしていますか？



＜分析および考察＞

フィルタリング等の利用状況は、小学5年生では18.4%、中学2年生では19.6%、高校2年生では6.2%である。男女別にみると、小学生5年男子では20.0%、女子では17.4%、中学2年生男子では20.5%、女子では18.9%、高校2年生男子では7.4%、女子では5.1%である。全体的には、高校生の利用状況が極端に低く、男子に比べ女子の利用状況がやや低い。また、「わからない」と答えた割合が高く、小学5年生では65.8%、中学2年生では59.5%、高校2年生では60.6%である。全体で6割前後が自身の携帯電話のフィルタリング利用状況について把握しないまま使用している状況があると考えられる。販売業者においては、各種啓発の課題や提供されているサービスや機能における問題などの要因があると考えられる。また、保護者がフィルタリングを認知しながら、子どもの携帯に有効利用していない実態があると考えられる。